

夢と現実。思い通りにいかないのが人生かも・・・前向きに考えるしかない。



この四国路ひとり旅にて出会った、坂本竜馬の語録、其の二

「丸くとも、ひと角あれや人心、あまりまるきは、転びやすきぞ」

「なんの浮世は、三文五里よ、ふんと屁のなるほど、やってみよ」

「何の志もなき所に、ぐずぐずして日を送るは、実に大馬鹿者なり」

「一人の力で、天下動かすべきは、是又天よりすることなり」

山はみどり 野に花 人にはこころ



◎ 家族編

人格形成の 基本は“家族愛”



龍馬は、豪商才谷屋から分家した郷土坂本家の次男として生まれた。坂本家には、祖母の久や、兄の権平の家族も住んでいて、仲のよい大家族の中で生まれ育った。このことが後の龍馬の思想を形作る上で、非常に大きな影響を与えたのではないだろうか。

例えば龍馬は28歳で脱藩するまでに、多くの愛する家族との別れを体験している。両親の死、長姉の千鶴、次姉の栄、祖母の久、権平の本妻と後妻、権平の長男・富太郎の合計8人もにのぼる。龍馬にとっ